

指定管理者による公の施設の管理状況評価（令和7年度分）

施設	名 称	栃木市そのべ児童館
	所 在 地	栃木市菌部町2丁目14番9号
	施設内容	児童厚生施設
指定管理者	名 称	社会福祉法人栃木市社会福祉協議会
	所 在 地	栃木市今泉町2丁目1番40号
	主な業務内容	地域福祉事業・介護保険事業・障害者自立支援法に基づく事業

（１）平等利用の確保とサービス向上の取組み

評価要素	①	施設の設置目的や特性に基づいた施設運営の基本方針が明文化され、職員が適切に理解しているか					
	②	施設予約や利用方法等について、市民の誰もが利用しやすい利便性と平等性確保の配慮がなされているか					
	③	アンケート調査等により、利用者等の意見を把握し、運営に反映させる取組みを行っているか					
	④	利用者等からの苦情や意見などに対し、適切な取組みを行っているか					
管理状況評価指標	指標名			計画値		実績値	
	利用案内揭示数			6か所		6か所	
	利用者アンケート数			100件		88件	
	利用者・参加者意見反映数			2件		4件	
	参加者アンケート数			100件		178件	
	業務改善数			2件		6件	
	利用者満足率			80%		100%	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	25	Ⅱ	0.8	20	I	1.0	25
指定管理者コメント	①施設の設置目的に基づいた管理運営方針を明文化し、事務室内に掲示しました。管理運営方針は職員会議等で確認し職員の理解を深めました。また、職員に事業計画書を配布した上で周知し、全員が運営方針を理解して業務に携わりました。 ②利用者への利便性に配慮し、出入口等に開館時間や休館日等の案内を掲示しました。また、低年齢の子どもにも理解できるよう配慮した内容で、掲示板に利用上の約束事などを掲示し、更に貸し出し用のおもちゃについても分かりやすく写真付きで利用方法等を掲示するなど、利用者の立場に立った使いやすい施設づくりを心がけ実践してきました。階段や踊り場には、楽しい雰囲気で見守る児童館に誘導できるよう、飾り付けを行ないました。また、高年齢の利用者が少ないという短所を解消するべく、その世代に向けた事業を行うなど、幅広い年齢を対象とした事業を総合的に計画し実施しました。 ③利用者アンケートについては目標値に達することはできませんでしたが、寄せられたご意見を令和7年度の事業実施及び令和8年度の事業計画に4件反映（講師登録、土曜日イベントの開催、利用者間トラブルの防止、周知活動）しました。 ④参加者アンケートの結果から、施設利用者及びイベント参加者からは、「満足」「やや満足」の割合が100%と、ともに高い評価を受けており、児童館運営に対して大変ご満足をいただきました。また、アンケート以外にも館内に利用者意見箱を設置し、広く利用者の意見を募りました。ご意見について、内容を精査・検討しスピード感を持って6件の改善(卓球のスペース追加、イベントの充実2件、お菓子作りイベント増、電池点検の実施、館内の育児サポートの充実)を行いました。						

施設所管課コメント

- ・勤務の様子からも、職員が常に規律を持って業務にあたっていることが確認できた。
- ・掲示物や工夫を凝らした飾り付けなど、日頃から利用者へ配慮している姿勢が伺えるため、今後も利用者の目線に立った施設づくりをしてもらいたい。
- ・利用者アンケートの満足率は100%と素晴らしい結果であるため、きめ細かく利用者への配慮がなされた運営だと言える。今後も施設の設置目的を意識して、利用者と良い関係が築ける運営を続けてもらいたい。
- ・計画を上回って業務改善を実施しており、業務改善の高い意識が伺える。

(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み						
評価要素	①	施設の設置目的に基づいた事業計画通りに管理運営をしているか				
	②	広報活動等（広報紙、ケーブルTV、ホームページ、SNS等）による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか				
	③	開館時間の延長及び新規事業等による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか				
	④	地域住民や関係団体等との連携や協働による事業等、利用者や地域住民の満足度を高める取組みを行っているか				
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	利用者数			8,000人	8,366人	
	記事の掲載回数			25回	28回	
	児童館だより発行部数			2,450部	2,600部	
	新規事業数（既存事業名だが内容は新規のものを含む）			10回	20回	
	協働事業数			2回	6回	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	I	1.0	20	I	1.0
指定管理者コメント	①令和7年度利用者計画を8,000人と設定して施設の運営を行ないましたが、366人増の8,366人となりました。職員は、利用者に安心して利用いただける環境づくりや、幅広い年代の児童が参加できるよう新規事業を企画し、皆さんに喜んでいただくことができましたので、環境に合わせた施設運営はできたものと思います。 ②市内全世帯に配布される広報とちぎ等に行事案内等を掲載し、本会ホームページにも行事案内を掲載するなど、広い周知を心がけました。 ③新規利用者の増加に向けた事業として、少人数制で一人一人に手厚い対応、趣向を凝らした新規事業を20事業実施しました。 ④協働事業について、複合施設の強みである、老人福祉センター長寿園、第六地区コミュニティ推進協議会と運動会や陶芸小物作りなど、高齢者とふれあい世代間交流を行いました。また、栃木女子高等学校と協働し夏祭りの開催や学習指導の場を設けました。また、市主催のまるごと児童館祭りではブース出展に加え、社会福祉協議会の地域福祉推進のノウハウを活用し、ボランティア参画による参加者へのわたあめプレゼント、障がい者団体の社会参加促進(売店出店)、古着回収等コーディネートを行いました。					
施設所管課コメント	・年間で20もの新規事業を行ったことは、新規利用者の増加や、継続利用者を飽きさせない工夫として非常に意欲的に取り組んだものと評価できる。年間利用者数は前年度より減少しているが、感染症の大流行等の影響があった中でも計画値を上回ったことは、利用者獲得努力の成果と思われる。 ・少人数制で一人一人に手厚い対応ができる事業や、多くの外部団体との繋がりを活かした協働事業は、市内でも特にそのべ児童館の強みであると考えられるため今後も特色を活かした施設運営を継続してもらいたい。 ・外部団体や高校生ボランティアとの繋がりは、市主催のイベント開催時にも大きな力になった。					

(4) 施設の管理を安定して行うための取組み						
評価要素	①	施設の適正管理に必要な職員の配置及び管理運営体制が確保されているか				
	②	職員の望ましい勤務形態及び育成指導、研修等が十分に確保されているか				
	③	職員の福利厚生は充実しているか				
	④	団体の財政状況等は健全であるか　＜別紙参照＞				
	⑤	各種税金や社会保険料等は適切に納められているか				
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	人員配置数			5人	5人	
	研修会開催数			3回	7回	
	研修会参加者数			延べ4人	延べ17人	
	常勤職員1週間の平均勤務時間数			40時間	38.75時間	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	I	1.0	20	Ⅱ	0.8
指定管理者コメント	①総括責任者に、防火管理者及び社会福祉主事等を有する者を配置して施設全体の把握に努め、安全管理を徹底しました。その他の職員は、保育士や幼稚園教諭等の資格を持つ「児童の遊びを指導する者」を配置しました。 ②救急救命講座Ⅰ・Ⅲについては、本来3年に1度程度の講座開催が求められるが、毎年実施することで対応力向上を図りました。また、救急救命講座ⅢⅠや感染症対策講座では長寿園にて福寿園と合同講習会をすることにより職員間の交流も含め、共通認識をすることにより職員の資質の向上に努めました。また、朝礼や係内において、緊急時の対応方法を研修するなど、緊急時における職員体制の強化に努めるとともに、不測の事態に備えました。また、館長会議へも出席し、情報の共有を常に図り、公平公正に接遇するよう職員一同努めました。 ③福利厚生について、全職員が健康診断を適正に受診しました。 ④健康保険料、厚生年金保険料、各種税金について滞納はありません。					
施設所管課コメント	・有資格者の人員確保はどの施設でも課題となっているが、その中でも、安定的に有資格者を配置できる適正な管理運営体制を確保していたものと判断できる。 ・救急救命講座の実施や、職員研修会も計画を大きく上回る内容で実施されており職員の育成指導にも力を入れている。また、併せて日常の朝礼や情報共有を密にするなどの職員が働きやすい環境づくりも続けてもらいたい。 ・施設の安定運営のためには、勤務時間など目に見える形で職員の勤務環境を把握することと、直接的なコミュニケーションをとることの双方が必要なため、今後も取り組んでももらいたい。					

(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み						
評価要素	①	日常の安全点検及び法定点検等の安全対策を行っているか				
	②	緊急時の危機管理体制等が確立されているか				
	③	避難訓練や防災訓練を適切に行っているか				
	④	具体的な個人情報保護対策を行っているか				
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	定期安全点検実施回数			12回	12回	
	事故発生件数			0回	0回	
	訓練実施回数			2回	2回	
	訓練参加者数			50人	81人	
	個人情報保護講習会等参加者数			1人	5人	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	Ⅲ	0.6	12	Ⅲ	0.6
指定管理者コメント	①毎日の館内、月1回の施設全体の点検を行い安全管理を徹底しました。また、来館することもたちにも理解しやすいように、イラスト入りで約束事を掲示しました。 ②緊急時の対応方法を定めた危機管理マニュアルや消防計画を作成し、職員に周知徹底を図りました。消防設備・防火対象物においては、とちぎ西部生きがいセンターとして年2回の点検を実施し、更に児童館内にある非常通報装置の点検を実施しました。また、施設の管理瑕疵に係る児童安全共済に加入し、不測の事態に備えました。 ③毎月1日に避難経路・消防設備の確認等を行いました。本施設は複合施設であるため、老人福祉センター長寿園、第六地区コミュニティセンターと合同で消防避難訓練を実施し、職員等が万が一の際の避難経路や避難の手順について確認することができました。なお、消防訓練時各設内に利用者等が少なかったのですが、できるだけ積極的に声掛けを行い、ご参加いただけるようお願いしました。 ④安全計画に基づき、月に一度各種訓練（防犯（さすまた）訓練、避難経路の安全点検、防災訓練（地震・水害・火災））を職員全員で実施しました。防犯スプレーの設置や来客への声掛け対応、避難経路・方法の再確認等施設の安全性の向上を図りました。 ⑤個人情報は、本会個人情報保護規程に基づいた管理方法で適正に処理しました。					
施設所管課コメント	・ 事故発生件数が0であり、日頃から安全管理対策が徹底されていた成果と思われる。また、子ども達が理解しやすいようイラストを使用するなど工夫が伺える。 ・ 消防避難訓練を複合施設合同で行い、実践的な対策をとっていたものと考えられる。有事の際には、建物内の連携や利用者対応は不可欠な要素となるため、今後も有効な備えをしてもらいたい。 ・ 個人情報の取り扱いについては、引き続き個人情報保護規定に基づき適正に管理してもらいたい。					

評価結果	配点	第1次評価点 (指定管理者評価)	第2次評価点 (施設所管課評価)	第3次評価点 (選定委員会評価)
(1) 平等利用の確保とサービス向上の取組み	25	20	25	23.1
(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み	20	20	20	19.7
(3) 施設経費の削減の取組み	15	12	12	12.0
(4) 施設の管理を安定して行うための取組み	20	20	16	15.9
(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み	20	12	12	14.1
評価点合計	100	84	85	84.8
総合評価		A (優)	A (優)	A (優)

第3次評価（選定委員会評価）

選定委員会コメント

- ・ 同じ敷地内の施設間で連携し運営している点は評価したい。
- ・ 高校生との連携など世代間交流により「地域を耕す活用」を実践しているとともに、多彩な新規事業に取り組まれており、父親のイベント参加率を上げる工夫等も評価したい。
- ・ アンケート満足度100%は評価したい。利用者アンケート数が計画値に届いていないため、今後改善を図ってほしい。
- ・ 牛乳パックやペットボトル、新聞紙を工作に活用するなど、エコ対策と経費節減に努めている点は評価したい。
- ・ 第六地区コミュニティセンター・そのべ児童館との合同消防訓練は継続してほしい。

(4) 施設の管理を安定して行うための取組み

《 別 紙 》

⑤ 団体の財政状況等は健全であるか

直近3カ年の情報を記入してください。

決算年次	令和5年3月期	令和6年3月期	令和7年3月期
資産総額	1,965,766,261	1,962,114,735	1,911,724,704
売上高	807,520,501	804,065,009	771,564,514
経常利益	△ 78,435,421	△ 66,888,293	△ 84,141,671
当期利益	△ 78,285,914	△ 72,810,722	△ 88,902,151
経常収支比率	91.2%	92.3%	90.2%

※ 経常収支比率について

本指標は、会社の資金繰りの実態を示す指標です。

この数値が100%未満であると銀行借入などをしなければ営業活動ができなくなるといわれているものであり、経常損失が生じていることを意味します。

決算年次	令和5年3月期	令和6年3月期	令和7年3月期
経常費用	888,350,143	872,437,597	857,435,842
経常収益	809,914,722	805,549,304	773,294,171
経常収支比率	91.2%	92.3%	90.2%

○経常収益（営業収益＋営業外収益）÷経常費用（営業費用＋営業外費用）×100で求めます。

指定管理者コメント

事務事業及び組織のスリム化を促したことにより、事業費支出及び人件費支出が圧縮いたしました。しかしながら、令和6年度における本会全体の財務状況は、依然として収益事業の実績が思わしくなく、介護保険事業収益や障がい福祉サービス等事業収益の減により経常収益の減少が続いております。繰越金があることも考慮すると、現時点で組織全体の運営に支障はありませんが、経営の安定化に向け、今後もコスト削減と収入源の確保に取り組みを継続いたします。